

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：32412

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370698

研究課題名(和文)日本人英語話者が苦手とする発話行為の克服を目指した教材開発研究

研究課題名(英文) Materials Development to Teach Speech Acts Difficult to Perform for Japanese Learners of English

研究代表者

川手 M i e r z e j e w s k a 恩 (KAWATE-Mierzejewska, Megumi)

聖学院大学・人文学部・講師

研究者番号：60398542

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本人英語学習者が英語使用において苦手とする発話行為(「不平」など)において、その概念を正しく理解し、表現するための語用論能力の育成を目指した教材開発を行うことであった。

日本人英語学習者が海外留学場面において遭遇する場面の中で、特に反応が難しいとされる「不平を言う」という行為を取り上げ、対話相手との社会的地位差の有無、及び対話相手との人間関係の親疎の度合いから合計4場面を設定し、できるだけ自然な状況で英語母語話者と日本人バイリンガル学生によるパフォーマンスを映像化した。その後、開発教材は大学の授業および留学前教育において活用、検証された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop teaching materials to teach effective strategies to perform speech acts which are supposed to be difficult for Japanese learners of English and to help them to understand and produce speech acts as pragmatic ability. Among the situations that Japanese learners find difficult to deal with in study-abroad contexts, the act of complaining was focused. Based on the previous research findings, two factors, that is, the differences between a speaker and a hearer in terms of social power difference and familiarity were identified and four samples of semi-authentic performance by a native speaker of English and two bilingual Japanese students were videotaped and put on-line. The developed material was later used in some university classes and pre-study abroad seminars.

研究分野：語用論

キーワード：語用論能力 発話行為 教材開発 不平

1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的基盤である第二言語習得理論、中間言語語用論などを援用した研究において、文法や語彙など言語の形式的側面の正確さの習得に加えて、コミュニケーション場面において言語の社会文化的側面である、相手との関係や場面に応じて適切な理解や表現を行う語用論能力の習得の重要性が指摘され、近年、多くの実証研究の成果が上がってきている。しかしながら、現在の研究における次のような課題が本研究開始の背景となった。

(1) 主要な発話行為への研究の集中

語用論能力の習得・使用に関する研究は、多くの場合、依頼(request)、断り(refusal)、謝罪(apology)などの主要な発話行為を取り上げたものに集中しており、これに対して、日本語の「不平」、「不満」、「文句」、「苦情」、「愚痴」にあたるマイナーな発話行為は研究も限られていた。このような概念は、日本語と英語において感情移入の違いがあることが指摘されており、否定的に解釈されたり、誤解、不躰な印象を与えたりする可能性もあることから、研究および語用論指導においてさらに焦点を当てていくことが必要である。

(2) 語用論能力指導のための教材の必要性

これからのグローバル・コミュニケーション社会において、日本人が英語母語話者・非母語話者と英語を通して意思疎通をする場合を想定して、言語の社会文化的側面に関わる語用論能力を外国語教育において涵養することはますます急務となっている。そのため教材は、多くの場合、テキスト教科書教材であり、そのねらいは言語材料への習熟である。さらに提示された場面や状況は不十分なものであり、自然な言語使用を表すものになっていない(Boxer, 1993)。

そこで、本研究においては、「不平を述べる」という発話行為を扱い、さらに注意深く選定した場面・状況を通して、言語的および非言語的側面も扱うことのできる映像教材を作成し、語用論能力指導に資することをねらった。

2. 研究の目的

本研究は、日本人英語話者が英語使用に於いて苦手とする発話行為のうち、特に不平(complaint)、批判(criticism)、建設的批判(constructive criticism)、コメント(comments)、提案(suggestions)の持つ概念を正しく理解し、さまざまな場面において自己の意見や提案などを適切に表現するための語用論的能力の育成をめざす映像教材の開発を目的とした。日本人大学生による海外留学場面でのニーズ分析をもとに、教材開発を行ったのち、実際にそれらの教材を使用することにより、英語による授業評価アンケートやプレゼンテーションなどの学生同士のフィードバックによってどのような効果があるのかを検証することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 第一年次

基礎文献資料の収集と理解

第二言語習得理論、語用論、中間言語語用論などの理論的基盤の理解のために、内外の学会参加と資料収集により、最新の研究動向の把握に努めた。

基礎データの収集

海外留学を経験した大学2~4年生35名に対する面接調査を通して、大学での授業などのアカデミック場面と、ホームステイを中心とした非アカデミック場面において、どのような場面で不平を述べたいと思ったかエピソードを収集し、映像教材作成のための素材とした。また、「不平」を感じる場面について英語談話完成テストにより、発話データを収集した。

(2) 第二年次

教材作成のためのスクリプト作成

日本人英語学習者が海外留学において遭遇する場面の中で、対処が難しいと思われる「不平」という発話行為を取り上げ、アカデミック場面に限定して、「教員対学生」、「学生対学生」のように社会的地位差の有無(地位差ありと地位差なし)から2場面に分類し、また、対話相手との人間関係の心理的距離、親しさ(親しい間柄・あまり親しくない間柄)を2場面に分類し、合計4つの場面のスクリプトを作成した。さらに、2名の英語母語話者によって、スクリプトの英語の文法的正確さ、社会文化的適切さの観点からチェック・修正を受けて、最終的な教材用スクリプトを完成した。

映像教材の作成

作成したスクリプトをもとに、国内のある大学キャンパスにおいて、教員研究室、学生用談話コーナー、およびPCルームを借用し、教師対学生、学生対学生による対話をビデオ録画した。配役として、海外生活経験の長いバイリンガル帰国子女学生を雇用し、なるべく自然に演じたものを映像化した。そのあと、ビデオ撮影者を兼ねた映像の専門技術者に依頼して、教材編集、高画質教材化を行い、最終的にvimeo動画共有サイトにアップロードした。

(3) 第三年次

教材の評価

完成した映像教材の妥当性分析を3人の英語母語話者教員に依頼し、個人差はあったが概ね自然さや妥当性には大きな問題点の指摘はなかった。

授業での教材の使用

完成した映像教材を学部3年生の授業において視聴させ、場面・状況が英語表現にどのように影響しているが、日本語表現との違いなどに気づきを持たせる活動を行った。

不平に関する談話完成テストの実施

映像教材中で使用された場面について、日本語と英語による談話完成テストを実施して、両言語において不平行為実現がどのよう

に行われるかについてデータ収集を行った。
学会発表
談話完成テストによる日英語による不平表現の分析研究成果は、完成年度後の国際応用言語学会で自由研究発表として発表される。

4. 研究成果

(1) 映像教材の完成

本研究の目的は、日本人英語学習者が苦手とする発話行為の克服を目指した教材開発を行うことであった。完成教材は以下のサイトでダウンロードすることができる。

Pragmatics for Japanese EFL Students.
<https://sites.google.com/site/pragmatic-japaneseeflstudents/>

本ビデオ教材の目的

本ビデオ教材は、大学レベルの日本人英語学習者が海外留学に行った際、学内およびホームステイ場面において遭遇する可能性のある最も困難な場面のひとつである「英語で不平を言うこと」に慣れさせることをねらいとしている。ここで扱われている4つのエピソードはすべて、日本人大学生英語学習者が15週間から10ヶ月間の海外留学を通して実際に経験したことをアンケートや面接調査によって収集したものをもとにしている。川手ミヤジエフスカ恩と深澤清治の共同研究によって開発・作成し、この教材によって日本人英語学習者の語用論意識が強化され、さらに自信を持って英語で適切なコミュニケーションができるようになることを期待している。(該当サイト 日本語版より)

本ビデオ教材の構成

本教材は次の4場面から構成されている。また、それぞれの教材は、次の3つのバージョンが用意されている。

- 映像 + 音声 (スクリプトなし)
- 映像 + 音声 (スクリプトあり)
- 映像のみ (音声・スクリプトなし)

Video 1: Complaining 1

場面：大学生があまりよく知らない教授に試験の成績について不満を述べる

Situation 1: A student to an unfamiliar professor.

Video 1 - Complaining 1



Video 2: Complaining 2

場面：大学生が親しい教授に TA について不満を述べる

Situation 2: A student complaining about his teaching assistant

Video 2 - Complaining 2



Video 3: Complaining 3

場面：大学生があまりよく知らない大学生に対して、PC ルームでの電話について不満を述べる

Situation 3: Student 1 to student 2. Students who do not know each other.

Video 3 - Complaining 3



Video 4: Complaining 4

場面：大学生が親しい友人の大学生に貸した教科書を返してもらっていないことに不平を言う。

Situation 3: Student 1 to student 2. Students who know each other very well.

Video 4 - Complaining 4



(以上、該当サイトから)

スクリプト例

4つの各映像クリップには、場面の記述とフルスクリプトも用意されており、映像 + 音声、映像のみのバージョンではスクリプトを視聴しながら意味を押さえたり、実際に声に出して練習を行ったりすることができる。

場面 1

Situation: You are taking a course with a professor for the first time. When you receive your first essay back, you are not at all satisfied with the grade given. You have read the course criteria for essays carefully so you strongly believe that your essay has not been graded appropriately. So you go to the professor's office. What do you say to the professor?

Student: (Knocking on the professor's office door)

Professor: Come in.

Student: Excuse me. Professor Paterson? May I speak to you for a few minutes?

Professor: Yeah sure. Come in, please sit down.

Student: Thank you. My name is Yukie. Um... I'm terribly sorry to bother you, but I have a question about the grade you gave me for my essay.

Professor: OK. What do you see as the problem here?

Student: Um I read your essay criteria very carefully and I spent a whole week to finish it. But I only got a C. I was wondering if you could tell me what I did badly.

Professor: Well, did you read my comments at the end of your essay?

Student: I'm afraid I didn't.

Professor: You should have read them before coming here. To start with you didn't choose a book from the reading list. If you look here you can see that your book's not on the list.

Student: Ah, I see. I guess you are right, Professor Paterson. I'll be more careful next time.

Professor: Great. And I'm sure you can write a better essay next time.

Student: I'm sure I will. Thank you for the time Professor Paterson.

Professor: No problem. Thanks. See you later.

Student: Thank you. Thank you.

Professor: Bye.

(2) 談話完成テストの結果

日本語および英語による談話完成テストの結果、日本人英語学習者は自分より地位が高く、あまり親しくない相手に対しては、不平表現の使用を回避する傾向があり、特に英語においてはそれが顕著であることがわかった。そのため、自分の気持ちを英語で表現することを支援するための指導において、本研究において開発された教材は有効なものであると考える。今後も異文化コミュニケー

ション関係の授業において、授業教材およびネット配信の自主教材として活用したい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計1件)

Seiji, FUKAZAWA and Yuka Yamauchi, A Study of Complaint Expressions by Thai and Japanese Learners of English., International Journal of Curriculum Development and Practice., 17, 査読有, 2015, pp. 65-74.

[学会発表](計3件)

Seiji FUKAZAWA, Megumi KAWATE-Mierzejewska and Shusaku Kida, Complaint Realization in L1 and L2 by Japanese Learners of English, 2016 BAAL SIG Language Learning and Teaching Conference, 30 June- 1 July, 2016, Lancaster, U.K.

Seiji FUKAZAWA, Teaching and Researching Pragmatics of English as a Lingua Franca. 7 March, 2015, JALT Pragmatics SIG Conference, Aster Plaza, Hiroshima, Japan

Megumi KAWATE-Mierzejewska, and Seiji FUKAZAWA, Complaints by Thai and Japanese EFL Learners. 22 November, 2014, JALT National Conference, Tsukuba International Convention Center, Japan

[その他]

ホームページ等

Pragmatics for Japanese EFL Students.
<https://sites.google.com/site/pragmaticsjapaneseeflstudents/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川手ミヅエカ 恩

(KAWATE-Mierzejska, Megumi)

聖学院大学・人文学部・講師

研究者番号：60398542

(2) 研究分担者

深澤 清治 (FUKAZAWA, Seiji)

広島大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：00144791